

実施を前提とするイベントを組み込んだ授業

- 宮地 克昌（東京観光専門学校 観光サービス学科）
- 田所 裕文（東京観光専門学校 観光サービス学科）

キーワード：パワーポイント、インターネット、社会実験

1. 目的：

専門学校におけるイベント・プロデュースの授業で、パワーポイントを利用した企画書やマニュアルの作成に加え、あまり費用をかけずに実施することができる社会実験としてのイベントの実施を組み込むことによる効果について研究した。将来、就職後に即戦力になる人材を育成できるように、イベント教育に必要な素材や事例、ノウハウを共有できるプラットフォームを創り上げたい。

2. 方法

東京観光専門学校観光サービス学科において、イベントの企画から実施運営までの事業推進に必要な知識とスキルを習得する授業で、①成功したイベントの事例研究、②実施を前提としない企画書の作成、および③実施を前提とする企画書の作成を組み合わせて授業を行い、授業中における学生の反応や取り組み姿勢、企画の進捗状況をチェックしながら、企画内容および発表を通して学生の成長を確認した。

成功したイベントの事例研究では、「東京ガールズコレクション」や「B-1グランプリ」、「国宝阿修羅展」など、学生一人ひとりが興味をもったイベントについて、インターネットを利用して検索してもらい、パワーポイントに内容を整理して発表してもらった。この時、「集客のキーワードは何か？」や「なぜ、成功したのか？」など、自分なりの考えをしっかり持って発表するように指導した。

実施を前提としない企画書の作成では、「七タイベント」や「国営公園を利用した子供のための夏フェス2011」、「東日本大震災復興イベント」について、各自が発想して企画書を作成し、発表してもらった。

実施を前提とする企画書の作成では、新宿区の神楽坂で毎年行われている「神楽坂まち飛びフェスタ2011」の一環として実施するイベントと、東日本大震災復興をテーマに国営公園で実施するイベントの二つを進めている。どちらもペットボトルや空き缶などのリサイクルできるモノや落葉を使って地上絵を描き、被災地へ向けてメッセージを送る社会実験として、11月の実施に向けて作業を進めている。

そして、「組織体制」「スケジュール管理」「企画」「予算管理」「広報・宣伝」「グッズ」「飲食」「演出技術」「会場運営」「会場設営」「本番進行」などのイベント・マネジメントの知識と、イベントやテレビ番組などの制作の現場で使用されている用語を、毎週の授業に少しづつ組み込んだ。

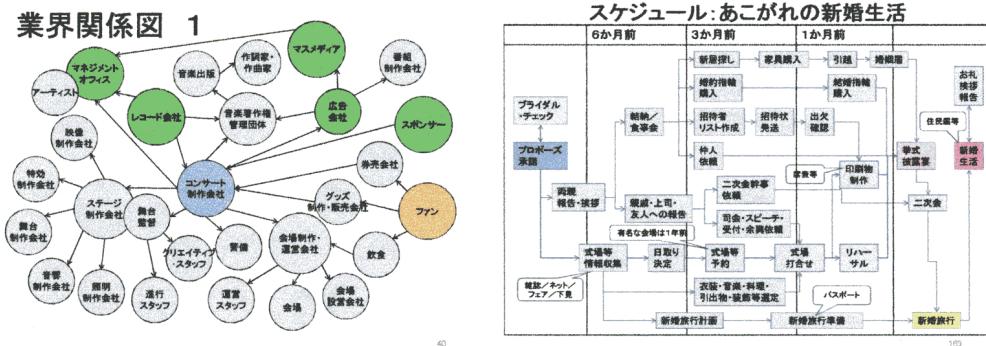
使用テキスト：

- 「イベント・マネジメント」（日本イベント産業振興協会2004年）
- 「日中英イベント用語事典」（シミズオクト編2008年）

3. 結果

会場や出演者のスライドを作る作業は、コピーおよび貼り付けによってインターネット上の文章や画像をパワーポイントに移動させる。簡易にスライドを作れるため、導入としては効果的であった。

「組織体制」は、図形描画の図形とコネクターを利用することで、熱心に取り組んでもらうことができるが、まず、イベント業界や音楽業界全体を俯瞰してもらうことが大切である。また、「スケジュール管理」も図形とコネクターを利用することで、バーチャートよりも難しいネットワークによるスケジュールづくりに興味を持たせることができた。「あこがれの新婚生活」や「初めての一人暮らし」などをテーマ設定が重要である。



「企画」においては、「ブレインストーミング」によってすばらしいアイデアを創出することができるダイナミズムを体験してもらう。出されたアイデアを画面上にテキストボックスでランダムに打ち込み、それを俯瞰しながらさらに新しいアイデアを出す。

「予算管理」の全体を理解することは難しいため、「グッズ制作で利益を出す」など、部分的なテーマに絞って説明する必要がある。エクセルで予算書をつくり、それをコピーしてパワーポイントに張り付けてもらうまでは順調に進むが、利益率などは非常に難しく感じるようである。

「広報宣伝」では、イベントの告知をするポスターの制作は熱心に取り組む。また、「グッズ」と「飲食」は、ベースとなる画像にワードアートやクリップアート、写真などを貼り付けるだけでできるため、学生の反応もいい。でき上がった作品をスクリーンに映し、本人に制作意図を発表してもらい、他の学生の感想を聞いてもらった。

4. まとめ

提案先を決めて、「提案が採用されれば実施する」と言った流れで企画書をつくる授業のやり方では、専門学校の2年間での実施までたどり着くのは困難である。小さいイベントでも実施を前提とした内容を組み込むことが必要である。

パワーポイントの機能と、インターネットを有効に利用することによって、イベントの企画について熱心に取り組んでもらうことができる。実施を前提したイベントを組み込むことで、実施を前提としないイベントもイメージしやすくなる。

協賛や後援の依頼、著作権の処理、関係各所との調整など、「渉外」に関することは、授業中に実際に電話で交渉したり、一緒に同行してもらったりするなど、実施を前提にしたイベントによってリアルに教えることができる。

以上